

ケアポート板橋 特養4階

症 例 概 要 90代 女性 要介護4

左肩骨折、右股関節粉碎骨折、多発性脳梗塞、アルツハイマー型認知症、狭心症、第1腰椎圧迫骨折、R3.左大腿部転子部骨折

R3.11月中旬に転倒され、左大転子部骨折。Opeは無事終了したものの、入院中に第1腰椎

圧迫骨折が見つかり、入院が長期化してしまう。1月に退院できたものの、2月に発生した特養コロナクラスターにより、コロナに罹患。一時、お看取りレベルまで状態低下したものの、奇跡的に食事自力摂取まで回復された事例。

内 容

左大転子及び腰部Opeが終了し、約2ヶ月間の入院を経て1月退院。起床時、腰部には必ずコルセットを使用しなくてはならず、屈曲や寝返りなどは禁止されておりました。病院では殆ど寝たまの生活であり、退院後も離床は食事の時間のみとして、長時間の離床は難しい状態でした。活気や発語も殆どなく、腰の痛みが強くなり、離床しても、背部の術後創部に装具が当たり、痛みの訴えが多い状況でした。

そのような中、特養におけるコロナクラスターが発生。4階フロアにも蔓延し、ご本人も罹患。常時居室対応を強い形となりました。連日発熱が続き、経口からの食事、水分摂取が難しくなります。元々体力の無かったご利用者にとっては、とても辛い状況でした。ご家族へ逐一情報提供し、「なんとか乗り切ってくれるといんですが」とお話がりましたが、点滴を施行しても状態の改善は見られませんでした。

食事や水分を口に入れても顔をしかめ、吐き出しや飲み込むことができても咳込みが多く、点滴を継続。ご利用者より「食べたくない」と仰られていること、体力も回復が厳しく、内服薬も中止しました。

ご家族との面会もできないため、画面越し面会を準備。「亡くなるまで逢えないと思っていたので、嬉しかったです。今日の様子をみて穏やかに眠るように逝けたらいいなと思いました」と言葉をいただきました。3月中旬まで、体重は5kg減少。それでも諦めず、アイスクリームやジュースなど、1口でも嚥下し易いものを提供し、次第に少量ずつでも口にできるようになりました。職員は「頑張りましょうね」と必死に声を掛け、次第に少しずつではありますが、笑顔もみられるようになりました。

暫くは咳き込まれたり、喉を抑え食事が進まないこともありましたが、5月頃より食事をご自分で食べられるようになり、現在は毎食全量食べられる様になりました。更には普通型車椅子で、自走をできるよう

になるまで回復され、誕生日には娘様と直接面会。「あの時もう無理だと思って覚悟もしていたのに、こんなに元気になるとは思いませんでした。本当にありがとうございます」と涙ながらに喜んでいただいております。

様々な困難や有事乗り越え、今では職員や娘様の声掛けに対しても、以前よりずっとお元気にいろいろなお話をされるようになられております。一度はお看取りを考えざるを得なかったご利用者の状態ですが、関わる全ての職員は決して諦めることなく可能性を信じ、全力で向き合いました。ご利用者の笑顔がこれからも続いていける様に、多職種連携を今後も継続して行っていき、ご利用者やご家族の笑顔を守って参ります。